

このまちが好きですか  
生まれ育ったこの場所  
今暮らしているこのまち  
そしてこれからも……

Do you like this city?  
The city where you were born.  
The city where you now live.

どんなまちになってほしいか  
もう一度みつめ直してみませんか

Take time to think  
Of what you want the city to become  
In the future.

自分のために  
家族のために  
そして大切な  
子どもたちのために……

Consider it for your sake  
For your family's sake  
And for that of your  
Precious children.



# 景観

LANDSCAPE  
KEIKAN

上越市景観形成情報誌「景観」第2号  
平成12年3月発行

表紙写真/平成11年度景観賞「はさ木夕景」(岩岡)  
編集委員/金井 繁・清水 恵一・青木 ユキ子・坂口 るり子  
英 文/エレナ ハイネス(上越市国際交流員)  
発 行/上越市都市計画課 景観デザイン室

〒943-8601 新潟県上越市木田1丁目1番3号 TEL(0255)26-5111 FAX(0255)26-6112

この情報誌は再生紙を使用しています。

# LANDSCAPE 景観 KEIKAN

景観レポート1  
上越市都市景観デザイン賞

景観レポート2  
景観フォーラム2000

特集/花でつくる城下町  
高田花ロード

編集委員による景観への5つの提案  
上越の景観

座談会  
この人たちに聞いてみたい

創刊号によせられたご意見・ご感想より  
読者からのメッセージ

上越市 2000年3月発行  
景観形成 第2号  
情報誌 No.2



上越市  
都市  
**景観**  
デザイン賞  
LANDSCAPE DESIGN AWARDS

今年度で第5回目となった上越市都市景観デザイン賞。

上越市内の目にとまった美しい場所、残していきたい景観、誰かに紹介してみたいくなる景観など84点応募があり、7点が入賞しました。

表彰式は1月30日に行われた景観フォーラムで同時開催され、推薦者と建物などの所有者は表彰を受けました。

どなたでも応募できるこの景観デザイン賞、是非あなたも応募してください。次回応募時期は7月の予定。「広報じょうえつ」等でお知らせします。



景観賞「春日神社の参道」春日



景観大賞「やまあいの集落」西横山・小池

受賞して…

景観賞「春日神社の参道」  
風間 常樹彦氏

鎮守の森が景観賞をいただき、歴史を継承する者として大変うれしく思っています。

わが祖先がこの地に住んで約千百年、幾多の歴史の変遷を通して守り続けてきたこの景観を誇りに思い過しています。参拝の方、散歩の人などが杉並木に囲まれた参道を清浄さと清々しい気持ちで歩く姿を大切に、自然と人間が調和できる空間づくり、環境づくりに日々努めています。心洗われるような新緑の春、キラキラ輝く光を遮る清涼さの夏、心に潤いを生む紅葉の秋、白の中に一段と鮮やかな色を配色する冬。春夏秋冬、人々はそれぞれの季節を自分の心に変化を持たせることで、生きることの喜びを感じています。上越市が地球環境問題に目を向け自然を大切にする姿勢に、敬意と感謝の気持ちでいっぱいです。

景観賞「長養館の黒塀」  
吉原 耕一氏

一昨年の台風で東側の大樑が倒れたときに塀なども壊してしまい、その再建にあたり既存の黒板塀(明治25年築)に倣って直したものです。百余年使ってきた建物もあちこちと傷みがきて、特に設備が老朽化してしまい、それらの更新に併せて館内の模様替えを数年掛かりですすめていたところでした。昭和初期の「古く」そして「雁木のある城下町らしく」をめざしています。自分の暮らす町であれば、きれいな町並みや緑の多い街であって欲しいと誰もが思います。今回の受賞は街の構成員として認めていただいたようで嬉しく、またほっとしております。最後に欲深ながら、もっと緑多い、もっときれいな、雁木の町並みに暮らせればと願っております。



景観賞「格子のある家」戸野目

講評 山ノ下 堅一

【景観大賞】  
やまあいの集落(西横山・小池)

私たちが忘れていた懐かしい景色がこの林道からの眺めです。上越市の懐の深さを示す大切に守りたい景観です。

【景観賞】  
格子のある家(戸野目 小柳医院)

低く連なる雁木の美しさは雪国ならではの情景です。この屋敷を維持しつつ診療を続けている医院に敬意を表するとともに、雁木の保存と再生を住民と共に真剣に考えることが求められています。

はさ木夕景(米岡) (本誌の表紙写真)

久比岐野の四季を彩る農村風景のシンボルであり、日本の米作文化を担ってきたという歴史を無言のうちに語っています。残し伝えていきたい景観として選びました。



景観賞「くわどり湯ったり村」皆口



景観賞「長養館の黒塀」寺町2

春日神社の参道(春日)

「春日神社の参道」に屹立する杉並木と石段など、訪れる人の気持ちを和らげる安らぎの空間を見事に演出していて、神社の由来を感じる歴史的な景観です。

長養館の黒塀(寺町2)

棚越しの樹木や竹藪・垣根は、街並と一体になった季節感のある景観をつくっています。素材と手法に配慮された黒塀をこの周辺の規範として評価しました。

くわどり湯ったり村(皆口)

この看板が今はシンボリックになっていて、この素朴さが訪れた人々に安らぎを与えてくれます。周囲に広がる雪国の豊かな自然環境と人間との関わり方を啓発していくことを考慮した施設整備が望まれます。

【特別賞】

花でつくる城下町・高田の活動  
(本町3.4.5丁目商店街振興組合連合会主催)

色とりどりの花のアートで飾り、商店街ににぎわいを創設することにより、中心市街地を活性化する目的で実施されました。今後もこのような活動が市全体に広がっていくことを願っています。



特別賞「花でつくる城下町・高田」の活動  
本町3・4・5商店街振興組合連合会

審査を通じて思うこと

国敷山河在(くにやぶれてさんがあり)  
関 由有子氏

いつも何気なく見慣れた景色、ある日小さな変化に気付く。「あら、いつ変わったのかしら?」でも、時が移るにつれて、いつしかそれも心の片隅に追いやられて目立たなくなる。日々の廻りの出来事は、こんな繰り返しの中で緩やかに変貌していくのかもしれない。何十年も離れていた土地に戻った時、何かをきっかけに懐かしい映像



審査の様子



屋外での審査風景(西横山・小池)

が鮮やかに浮かんでくれば、やはり嬉しいものだ。年を重ねたしるしかもしれない。セピア色に変色したおばあさんの写真帳を覗くように。

街の景観はその土地の生活の匂いとか人々の心模様を映しながら、ゆっくりと刻まれていくのがいいと思う。突然建物か潰され、空地が駐車場になり、看板だけが空しく残ったのは、ハブル絶頂期でこりこり。高田の雁木通りも寺町も直江津の浜沿いの界限も、山間の集落やはさ木のある頸城平野の眺めも、唐突なアイディ



表彰式

アで一新するのではなく、人間の一生よりもはるかに長い時間を想いながら、知恵を出し合っ

て考えていきたい。変わること、変わらないこと、変えること、変えないこと。詩人の言葉を待つまでもないが、悠久の時の中では大自然の山河すら変貌する。

これからが楽しみな上越市  
葦澤 均氏

「景観デザイン賞」の功績は、これまで市内の美しい景観やデザインを見つけ紹介することによって、よい景観をさらに見つけようとする市民の意識を高めてきたことにある。これからは「見つける」から「創造する」「計画的にデザインする」へのステップアップが大切になってくるので、景観条例に寄せる期待には大きいものがある。

しかし私は、条例とは違う意味で効力をもつものがあると思う。それは「よさ」を積極的に認め合う一人一人の生活スタイルである。美しいものやよいデザインに、はっきりと「よい」と言い、それをいろいろなものを選ぶときの基準にするということである(逆に言えば、景観や美を考慮しないものは認めたくないということになっていくから、デザインする側には切実な問題になる)。そして行政には広報で「月間景観デザイン賞」のスペースを作ることを提案する。投稿し、紹介される、自分も探す、創造のヒントにするなどそのすべてが喜びにつながり、この内側から暖まっていくようなものがあれば市民一人一人の意識が高まる。北風の強い季節でも、美しい景観やよいデザインを通じて街も心も暖まるような上越市に近づいてきている。



審査員と受賞者の皆さん

平成11年度上越市都市景観デザイン賞(応募総数84点)

	表彰景観	受賞者/推薦者	受賞者/所有者
景観大賞	「やまあいの集落」	川崎 裕之	西横山・小池町内会
	「格子のある家」	川上 弘	小柳医院
	「はさ木夕景」	川上 弘	米岡町内会
景観賞	「春日神社の参道」	川崎 裕之	春日神社
	「長養館の黒塀」	田崎 秀尚	長養館
	「くわどり湯ったり村」	深井 豊子	リフレ上越山屋振興(株)
特別賞	「花でつくる城下町・高田」の活動		本町3・4・5商店街振興組合連合会

審査委員

- 山ノ下 堅一氏 上越教育大学芸術系美術関係教授
- 廣田 敏郎氏 新潟県建築士会上越支部長/高田工業高校教諭
- 齊藤 博氏 上越市建築設計協同組合代表理事
- 関 由有子氏 NPO法人 木と動物研究協議会
- 葦澤 均氏 上越教育大学院生 学校教育研究科

# 景観 LANDSCAPE FORUM フォーラム2000

平成12年1月30日(日) 上越市厚生南会館 大ホールにて

## 「景観って何？」

新潟大学工学部建設学科 教授  
樋口 忠彦氏

景観とは目に見える世界ですが、ただ目を開けて見ているだけでは景観とはいえません。例えば妙高山が雪景色でいなあとと思うこと。これが景観です。つまり情緒的に周りを見るということです。そして景観というのはいろんな人の目で見ていく必要があります。それはまちのよさを発見することにもなります。自分だけで思っているだけでもだめで、昔の人はそれを絵に描いたり、和歌に詠んだり、そんなことをやってお互いに認めあいました。景観づくりをやるうとする場合は、ひとりだけではだめなのです。お互いに話しあい、そして「いいね、この景色は」というような会話が、その中でこうしようという行動が生まれてくるのが大切なのです。行政が計画したとおりやっていると、行政が考えた風景になってしまいます。そこに住んでいる皆さんが「いいな」と思っていることを出し、自分たちの経験を出し合い決めていくプロセスが非常に大切なことなのです。

まちづくりもそういう方向に変わっていかねばなりません。話し合いの場をつくらせていくことが、景観づくりにはぜひとも必要です。

あなたの視点でまちが変わる。まちを変える。そういう視点で取り組む必要があると思います。



## 「色彩って何？」

カラープランニングセンター 取締役  
吉田 慎悟氏

色彩は環境を構成しているもの全てのものに関係して美しくも醜くもなります。せっかくお金をかけてつくった家や道路も、色の使い方を間違えると、周辺の町並みを壊してしまうことがあります。個人の住宅であっても、自分の趣味を過信せず、周囲の色との関係に気を配ることが大切です。日本はいろんな色を使いすぎたと思います。

地域住民が色彩を通して話し合い、共通認識を持つことが景観形成に大きな意義を持つのです。色彩の議論は身の回りの環境を見なおすきっかけとなり、まちづくりは活性化します。私はこれから多様で魅力的な色彩の未知の力を引き出し生かしていきたいと考えています。



●地域の景色を見直す。  
直江津の黒い釉薬瓦の家並みや、海辺の潮風にさらされた灰銀色の板壁の家、高田の雁木の通り、どれも地域の気候・風土に育まれた個性的な景色をつくっています。新しいものばかり追わずに見慣れて当たり前になった景色をもう一度見直すことも大切です。



●慣れ親しんだ色を基本とする。  
高田の家並は青や赤や緑など、さまざまな屋根色が入交り雑然としています。地域で永く使われてきた黒い釉薬瓦などの建材をもう一度見直してみることが大切です。これらの色は落ち着いた色で、いつまで見ても見飽きない色調を持っています。



市民の手で景観づくり 上越市長 宮越 馨

景観形成というのは、私たち一人ひとりの心地よさにつながっていくものです。皆さんもご自身の家に庭をつくったり花を育てたり、木を植えたりしています。これもある意味では自分の世界の景観形成に取り組んでいる結果だと思えます。このような取り組みが個から社会に発展していき、自分と社会との連携が生まれてくると、地域が、国が、さらには世界が美しくなっていきたいという気持ちの輪が広がっていきます。

本フォーラムに参加していただきました皆さんから、上越市の景観に関することや、市民参加型の景観条例案に関する様々なご提言をいただき、3月24日に景観条例を公布するにいたりしました。市民の皆さんが景観づくりの鍵を握っています。皆さんとともに美しく快適な上越市をつくってまいりましょう。 \*上越市景観条例の内容については、後日パンフレットで市民の皆さんに配布しますのでご覧ください。

## 「あかりって何？」

ライティングプランナーズアソシエーツ 常務取締役  
稲葉 裕氏

夜の町を演出する光には、街灯などの照明そのものの光と照らされているものや空間の光があります。店が開いていなくても歩きたくなるまちや、夜もやすらぎの場として使いたくなる公園など、日が暮れてからもほっとするあかりや賑わいを見せる照明の演出により、もともと魅力的な町に広がっていくのです。私たちは皆さんに夜の演出に興味を持ってもらうため、次の活動も行っています。

### 照明探偵団

まちの中をグループで調査し、夜の魅力をみんなで考えます。

### ライトアップゲリラ

何気なく通り過ぎていた夜のまちを、いきなりの演出により全く違った雰囲気に変えます。



●七会村小学校ライトアップ  
テレビ番組「たけしの誰でもピカソ」で放映された茨城県七会村小学校ライトアップの全景。校舎の閉校を惜しみ、全校生徒はもちろん、家族や住民までまきこんで、記念のライトアップを行いました。



●ライトアップゲリラ・イン・宮下公園  
渋谷・宮下公園のライトアップゲリラ。工事用パイロンや光チューブ、投光器を持ち込んで、普段とは全く違う、夜の景色をつくり出しました。

## 「サインって何？」

島津環境グラフィックス 代表  
島津 勝弘氏

サインと耳にすると、多くの方は街の中で主張しあっている看板類を想像されると思いますが、文字や情報が入っていない人間の見え方に入ってきて何らかの方向性やイメージを伝えるものはすべてサインだと思います。

上越のまちでも同様だと思いますが、街の中にはたくさんの情報を伝える屋外広告や景観を阻害している造作物や装飾が数多くみられます。イメージを少しでも伝えるために使用される色彩もサイズもどんどんエスカレートしているのが現状です。これからのまちづくりを考えると賑やかな部分も必要ではありますが、その地域にあったルールを話し合いの中から決めていく取り組みが必要だと考えています。



●スライド-1  
文字の表示はなくても大きなネットを見ればだれでも、ゴルフ練習場とわかるサインなのですが、建設される場所によっては美しい山並みも消してしまう景観障害物に変貌します。



●スライド-2  
町をPRするサインだとは思いますが、果たしてこの看板からどんなイメージが伝わるのでしょうか。色や表示内容から伝わるイメージをもう少し検討する必要があると思います。



# 高田花ロード

花、花、花、花、いつもとまったく違った顔に変身した本町通り・大町通り。本町3・4・5丁目商店街振興組合連合会の声掛けで、約200点の花のアートが思い思いの表情を見せ美しく飾られました。生花はもちろん、紙でつくった花や落ち葉、藁などを使い、独創的なアイデアで道行く人々の目を楽しませてくれました。このイベントは、上越市出身でアートディレクターの北川フラムさんと、地元商店街の女性団体とのワークショップを重ねる中から生まれたものです。こうした熱気あふれる活動は、数々の感動を生み商店街を生き生きとよみがえらせるエネルギー源になりました。



結婚式



ゲームコーナー



いにしへの写真展

## 受賞者

### グランプリ

矢野弘美

### 上越市長賞

羽鳥洋子

### 上越商工会議所会頭賞

かたぎり蒲物学院 片桐久枝

### 真野響子賞

上越教育大学美術金工室ゼミ 佐藤賢司

### 大岡玲賞

石原幸子

### 北川フラム賞

挿花萌乃会 一藍 舟木茂

### 特別賞

大町小学校3年1組

大町小学校3年2組

大町小学校4年生

上越大和文教養育クラブ

(株)英香園青年部 松岡直樹

松下電子工業(株) 新井工場華道部

市川昭夫/上村裕司/横山飛鳥

林真砂子/藤田洋子/細谷千恵子



## 「花ロードによせて」

真野 響子(女優)

「花ロード」の審査員のお話があった時、数年前に訪れたニュージーランドのクライストチャーチを思い出しました。国際的にも知られたフラワー・フェスティバルで、ガーデンコンテストもあります。クライストチャーチという大聖堂のなかも花で埋めつくされ、道路にはじゃがいもや野菜も一所に敷きつ

## 【高田花ロード】

日時/1999年10月9日(土)・10日(日)・11日(祝)

会場/本町商店街とその周辺地域

主催/本町3.4.5商店街振興組合連合会

共催/上越市・上越商工会議所

審査員/真野響子・大岡玲・北川フラム

められていて、中世の美しい静物画を思い起こさせました。

さて、今回の高田ですが、初回の試みとしては大成功だったと思います。季節が秋ということもあって、稲を飾った作品も多く、落葉もあり、竹もあり、もちろん野菜もありで、日本で「花」となると、「美」の範ちゅうがここまで広がるのかと、改めて古代からの日本人の美意識を再確認させられる思いでした。

商店街では、デパートや銀行のウィンドーがそのまま提供されていたり、空き店舗がアート空間に変身していたり、おもちゃ屋さんのゴジラがバラの花をくわえていたりで、ワクワクしました。

一本入った旧市街地は、街並みも落ちついていて、作品も、活け花調のものが多く、招待作家のものも、ここに集中していました。玄関先に丹精を込めた鉢物を出している家もあり、ついでお倉の中にあった古いガラクタ(?)けん玉やら、子どもの下駄やらを所狭しと並べてあったのもモダンアートみたいでオモシロかったです。

夜、散歩しながら見た花たちも、また明るい中とは違った魅力を放っていて、これも収穫でした。

まだまだ可能性を沢山秘めたお祭りですが、高田の良さを見つめ直し、人々とのつながりをもっと深める事により、より良い作品が生まれて来るのではないかと思います、これからが楽しみです。



福島光加(招待作家)



矢野弘美(グランプリ)



上越教育大学美術金工室ゼミ 佐藤賢司(真野響子賞)



挿花萌乃会一藍 舟木茂(北川フラム賞)

## C O L U M N

### いいまち、いい活動みつけた。

大町5丁目は、町内ぐるみで「花でつくる城下町・高田」のイベントに参加しました。町ぐるみでいきいきと輝いた、ちょっと羨ましい取り組みをご紹介します。

### 町ごとまるまる参加 いきいき大町5丁目

大町5丁目 町内会長 藤沢昌治

大町5丁目は、年一回の祭りの時には活気が出ます。しかし、町としてはやや沈滞ムードが伺えることは否めません。町内に活気が湧き立つよい機会がないかと考えていましたところ、「花でつくる城下町・高田」への参加の誘いがありました。これは、ま

ち起こしには絶好の機会と考え役員会に困ったのです。

個人参加はもちろんよいですが大町5丁目として参加したい、雁木どおりを生かすアイデアを出し合いたい、雁木どおり展覧会をやりたい、ということで参加が決まったのです。

イベント参加が急だったので予算はありません。自宅の裏庭に咲く草花を、盆栽等鉢植えを、また、自宅にあるちょっとした置物や飾り物を出してもよいし、各班毎によく相談をし、アイデアを出し合っていきたいと思います。

どの班も、どの人も積極的でした。展示場所などにこだわらず道路端に、雁木の中に、



大町5丁目展示風景

自動車の車庫に、軒先にと展示されたのです。各班一箇所の展示と決めたのに数箇所に展示した班もあったのです。この参加意欲は、文句なしに素晴らしいと思いました。

このイベントに大町5丁目として参加したメリットは、町ぐるみ共同協力の参加ができたことです。また、ややもすると途絶えがちだったコミュニケーションがとてよくなったことです。花で飾る城下町ですが、精神面では花以上のものが形成されたと自負しています。

町まるごと参加で、いきいきとした大町5丁目の新生を感じています。

この度はグランプリが欲しいとねらっています。また大町5丁目では意欲高揚のため珍品賞などを盛り込み、独自の審査をしたいと意気込んでいます。これを町内結束の機会にしていきたいと思っています。

普段何気なく見過ごしている  
 私たちのまちのようすを  
 景観を意識して見てみると、  
 とてもいいなあ、ちょっと変だなと

感じることができます。  
 そこで5人の景観情報誌編集委員が  
 探検したところ、  
 いろいろな題材がみつかりました。

Report 1

「楽しい街の小道具があったら」  
 坂口 るり子



高田公園内の高田図書館に昔からある石のベンチは思い出もあり、ずっとそこに残してほしいと思っていますが、たくさんの緑の中にそれだけだと、少し暗いイメージに感じています。緑も多く広い場所にはオブジェ的な(見て楽しい)、座っても楽なイス、ベンチがあったらおもしろいと思います。色もきれいで温かみのある材質、ただあまり色がありすぎてもいけないので、まわりとの調和を考えながら使用する材料、老朽化対策等も十分に考えて、雪の中に暖かい色が見えるのもほっとします。まちの内外にお年寄りや疲れたら座れるような、また小さな子ども連れのお母さんや子ども、妊婦さんたちも休めるようなゆったりとした、座りやすいおしゃれなベンチもあったらすてきですね。

ごみを持ち帰る習慣はとても大切な事ですが、それと同時にごみをゴミ箱に捨てるという事も大切な事と思っています。街の中や公園にごみを入れたらオルゴールが鳴ったり、かわいい動物の人形がありがとうと顔を出すようなゴミ箱があったら、ごみを捨てるのも楽しくて、親があまりうるさく言わなくても、子どもに大切な習慣が身につくのではないかなと考えたことがあります。もちろん、まちにとって邪魔にならないような色、デザイン、素材、安全性をよく考えてのことになりますが、こんな楽しいまちの小道具があったらすてきですね。

Report 2

「沿道の景観と街路樹」  
 青木 ユキ子

景観というと景色、眺め、自然をイメージします。上越市はまだ自然が多く残っていて緑が多いですね。しかし、道路の整備によって長い間生きてきた樹木が切られていたこともありました。

整備された新しい道路には潤いのある景観を考えて樹木が植えられ、車道と歩道の境、歩道と私有地の境など、樹種も桜、榎、松など様々な条件に合わせて植えられています。さらに歩道などはカラーブロックが敷かれ、機能中



心での殺風景になりがちな景色に変化を与え気持ちよさを感じさせてくれています。緑は本当に心が和みます。そんな気持ちで街路樹に目をむけるとちょっと気になる木もあります。20年、30年と経てきた街路樹は、厳しい自然環境にも耐えたくましく成長してきました。私たちの想像以上の成長をしたり、成長しすぎて電線や建物、交通の邪魔になったりして問題も出てきているように思われます。剪定は秋頃行われているようですが、冬には葉が落ちて樹形がはっきりするためか太い枝(幹)が途中で切られたりして、そんな姿を見るとなんだか心が痛みます。植樹については長期にわたる継続的な管理も考慮しながら、私たちはいつも樹木にやさしい人間でありたいと思います。

Report 3

「ごみステーションの居場所」  
 清水 恵一

環境問題は今、社会全体の中で大きくとらえられる時代になっています。特にごみ問題に対しては、個人、家庭、企業、そして地域全体としても、様々な問題を投げかけています。普段はそんなに気にせずに使用している町内のごみ置場(ごみステーション)に目を向けて見ましょう。ごみステーションが実質的に使用されている時間は、1日の内のごく限られた数時間であり、後は、空の鉄網の箱がそこに置かれていることとなります。ここにあげた2枚の写真も私たち上越市では見慣れた風景です。

「案内看板の横の集積箱」「扉に立掛けられた使用後の組立集箱」この2例を、ちょっと景観という目で見てみましょう。上越の町を訪れ、ふと立ち止まって、地域の案内看板を見ていると、その横には無粋な錆止め色のごみ箱。これでは散策の楽しさが半減してしまうかも知れませんね。絶対的に必要な物ですので、無くしてしまう訳には行きません。



その居場所と姿を地域の皆さんで考えてみませんか。その地域の風情に合った色と形を持った物にしてみませんか。いつも毛嫌いされているごみを集めて置く所です。彼等(彼女等?)にも素敵なお洒落をさせてあげましょう。皆さんの地域がもっともっと素晴らしい町に変わると思います。

Report 4

「心を育む町並みづくりを」  
 金井 繁

心にやすらぎと潤いが持てるような町のたたずまいづくりは、この町に住む人、この道を通る人にとってとても大切なものだと思います。「この町に愛着を感じる」「この町に住みたい」という気持ちになる意識の芽生えは、その町に住む人々との交わりから生まれるものだけでなく、景観という環境が住む人々の心に及ぼす影響がかなりあると思います。

町全体がなにか雑然としていて心落ち着かないところだとすれば、そこには、ふるさとへの愛着心や望郷のような心は育ちにくいのではないかなと思うのです。

このように考えたとき、街並みの景観を心にやすらぎと潤いが持てるように少しずつ変革していく試みや努力が、市民全体に必要なのではないのでしょうか。市民のちょっとした



配慮で、大きな成果が得られるものと考えます。ことさら目立つ仕掛け、一際目を引く広告塔のような仕掛けをつくらうとするのではなく、心にやすらぎと潤いが持てるような景観の仕掛けを心掛ける必要があるのではないのでしょうか。今、市民全体が考えていく時だと思うのです。

Report 5

「ゆらゆら探訪 in JOETSU」  
 上野 るみ

歴史的な趣のある通りを通ると、板扉にしたお宅がありとてもまちの雰囲気に合っている気がしました。しかし扉に消火栓の赤いボックスが設置されており、せつかくの板扉の雰囲気がこわれてしまうのではと感じました。もし用途上、色を変更できないのなら場所をもう少し扉の端とかに移動できれば良いかなとあれこれ考えてみました。

ふと松を見上げると、銀色の弓型の街灯がやはり松の偉大さを邪魔していました。歴史を感じさせる街灯って、木製のもの、もしくはそれに色合い

が似たものが良いのではないのでしょうか。黒に近い色の木造のお宅では、なんとごみステーションも家の色と同じ色の木で作られ



ていて、住んでいる方の心入れがうれしく思いました。

外界から閉ざされた長い冬を越え、雪から解き放たれたフキノトウのように、上越人は春の訪れを待ちわびます。郷津の海岸も暖かくなるとこんな表情を見せ、海岸を大事にして語りかけている気がします。6月には正善寺ダムの清冽な水の淵に、紫陽花の紫、藍が葉の碧とともに鮮やかに映えます。少し色が合わないかなと思った橋もハーモニーを奏でているようです。もっともっと穴場を探し出し、また大好きな上越を紹介したいと思います。

## 座談会

# この人たちに聞いてみたい

環境大使養成塾受講者 & 環境ボランティアグループ エコ・グリーンの皆さん  
塚田 照子・波多野 良満・深澤 久雄・西田 裕香子・宮嶋 順也

〈聞き手 青木ユキ子〉

環境に深い関心をお持ちの皆さんですが、景観に対してもきつとご意見をお持ちだと思いますので、今日はいろいろお聞きしたいと思います。

まず、何気なく耳にしていた景観ということばからどのようなことを連想されますか。

西田 山や川など自然の風景をイメージしますね。

宮嶋 私は景観とは、自分が感じる目や心をもっていないとただの風景でしかなくなる、つまり内面と深くかわるものではないかと思えます。また単なる観光資源ではなく、人々の豊かな暮らしが伴っているべきだと思うんです。

深澤 北九州に住んでいたときはつくられた美しさ、まちづくりというイメージがありましたね。というのは、工場の屋根や外壁の色を、景観を考慮して自主的に変えることが多かったんですよ。

波多野 そういえば横須賀でも工場の外壁が雨風で黒く汚れた町のイメージが暗くなるということで住民が工場に相談し、ボランティアで明るい色に塗り替えたという話を聞きましたね。

私自身は景観というと、観光地とかきれいな景色というイメージがありますね。

では上越市ですばらしいな、誰かに教えてあげたいと思う所はありますか。

深澤 水族館の屋上や五智の山、桑取など少し小高い山から見た景色がとっても好きですね。

ただ北九州の場合、新幹線やモノレール、山から眺めた場合の景観上の障害箇所をきちんとチェックし、よい景観をつくっていますが、上越市もそのようにしたら良いと思えますよ。

塚田 高田公園から見た南葉山などの山々もとてもきれいですよね。

波多野 桑取の山に遊歩道があったらいいですね。ブナ林の落ち葉の感触が最高なんです。自然のままそうっとしておきたいですね。

宮嶋 海、山が近くにあり自転車で回ることが多いんですが、都会に住むことが多かったのこちらへ来た時、空が広いなあと感じました。



なるほどねえ。私はそんなふうには感じたことがありませんでした。気付かせてもらった気持ちです。

西田 私は関川大橋から西の方面を見ると、五智の山に日が沈んだ後の、空の何ともいえない色にとっても感動するんですよ。

では逆にこうした方が良いのではと提案されることはありますか。

西田 パチンコ店やカラオケ店の照明やネオンに問題のあるところが見受けられます。あかりの質や照明器具の種類を変えるだけでもいいと思います。

深澤 街灯のデザインにもう一工夫がほしいですね。下水道の蓋のデザインのように、街灯にももう少し力をいれたらと思いますね。

波多野 高田公園の電線を地中化したらどうだろうか。市街地も徐々に手掛けていって高田城や雁木通りの景観が向上すると思えますよ。

深澤 直江津の旧裁判所跡地や市内の空き地の管理にがっかりします。何か良い活用法があればいいですよ。

いろいろ問題もありますが、では市民が主体的に景観を考えていく、また活動していくにはどうしたらよいと思えますか。

塚田 まず行政が上越市のまちづくりにどういう青写真があるのかを示し、それを市民にPRしていく。それが伝わらないと歴史のある町といいながら、雁木はどんどんなくなってしまいます。

保存していく補助金についても考えていただきたいですね。また、活動している人々をどんどん紹介していけば、あの人たちがやっているんなら私たちもやってみようという気持ちが高まってくるのではないのでしょうか。

波多野 各町内でまちづくりのテーマを考え、強制にならないよう有志で取り組み、その活動をコンテスト形式にするのはどうでしょう。

深澤 学校の生徒や企業にも働きかけデザインコンテストを行い、ISO取得と同様に景観にも力を入れてもらったらいと思いますよ。

宮嶋 私自身も自分の住むまちの新しい発見という宝物や、まちづくりという営みにたいへん憧れを感じます。今後も環境サークルと合わせて景観についてもいろいろ教えてください。

ありがとうございました。景観に対しこれからもいろいろご提案ください。そして自慢できる上越市にしていきたいものですね。

創刊号によせられたご意見・感想より

# 読者からのメッセージ

昨年の春、発刊した景観情報誌創刊号を、上越市内の全戸および上越市にふるさとがある市外の方々に配布しましたところ、たくさんの感想が寄せられ、皆さんのふるさとに対するあつい想いととも、景観に対する関心の高さがうかがえました。その中からいくつか紹介します。



平成9年10月に東京から当地に転入しました。子どものころは鎌倉横浜、兵隊で満州、中支、戦後は仕事でアメリカ、メキシコ、ヨーロッパ、国内は北海道から九州までいろいろ行きましたが、これらと比較しても当地は抜群に良い所です。周囲の山々をバックに古い史跡を大切にしつつ、新しい街づくりをして下さい。それには専門家の方々、建築家から大工さんに至るまで良いセンスが必要です。よろしくお祈りします。

「雪山の連りありて燕舞ひ」

上越市大和 後藤 正夫

中央病院南側「市民の森公園」植樹に際し、桜木130本以上植えられたら、入院中の患者さんの心もなごみ、ながむる妙高山とともに、回復もはやくなるものと思います。いつも周りを散歩しますが中央橋から鴨島三叉路間の歩道(工事中)にも桜を植えられたら、県外からの観光客導入に役買うとともにさらに中央病院、看護短大敷地に桜を増植されたらよいと思います。

上越市子安新田 中条 護

市民大学講座「まちづくり市民大学」を1年間受講した者として、一言、まず、このような景観形成情報誌が刊行され、行政側の市民に対する姿勢、スタンスの取り方に好感と期待を感じます。「対談」に於ける宮越市長はじめ発言者の見識にも、今後検討を重ねながらの景観条例への期待感を抱かせるものを感じました。

私感を敢えて申すなら、このような視点を行政がもっと早い時期に持ってリードしていたなら、高田本町3~5丁目のアーケードが、あの都市計画がもっと「高田」のイメージを自然に魅力的に再生してきたのではないかとくやまれるのは私だけでしょうか。時間をかけ、ゆつくりと、どこにもない景観条例の制定を心から希う次第です。

上越市新光町 米山 康久

なんと言っても私は桜が大好きで、ここ数年長野からお客様を連れて観桜会に行っています。スゴイ、スゴイと大変喜んで頂いて、また来年もとお客様の方から言われる程です。「撮って出し上越」はすばらしい所ばかり見せてありますが、大型店(デパート)がなくなるかも知れない話を耳にし寂しい思いをしています。実家のある上越がますます明るく発展して行く事が、遠くにいる者の願いです。

長野県小県郡東部町西海野 大沢 由美子

楽しく拝見させていただきました。景観条例を検討中かどうかはわかりませんが、この条例は全国で次々に作られています。提案があります。わか故郷「上越市」には、他都市と似たような条例制定に甘んじることなく、豊かな自然環境や人情の濃やかさを充分にいかした雪国ならではの町や里を作ってほしいと思います。具体的には、現存する自然や歴史遺産を取り入れたポケットパークやミニフォレストを至る所に造り、そこに行けば、四季折々の五感が楽しめるしかけをつくりたい。恋人同士が裸足になって波打ち際を走り、砂の感触を味わえる光景など、ワクワクするではありませんか。一つの例ですが、そんなにお金をかけなくても、知恵を出しあえば、おもしろい、楽しい都市づくりができると思えます。(※市民や会員からアイデアを募集してみてもいいですね。ワークショップなどもいいですね。サンドパークや竹小路など、すぐにもできるのではないですか。)

東京都府中市美好町 山澤 則夫

すばらしい創刊号です。特に表紙のデザインはステキです。見ていて、何かウキウキしてきます。「問いかけのメッセージ」市民全員が心を一つにして、自分達の住む街を考えたら良いですね。次回、具体的に「まちづくり」に取り組んでいるのをとりあげてもらえれば… 期待しています。

上越市鴨島 石川 勝治

※これらのメッセージは、原文のまま掲載しております。